



大規模災害に対する対応について

金子 博

問 ハザードマップの見直しの必要性と今後の対応は。

答 先日の台風第19号による被害では、ハザードマップに記載の無い箇所が法面が崩落したことなどを考えると、必ずしも記載の無い箇所が安全とは言いきれない。市民の皆様には危険予測の意識を高めていただくことも必要だと考えている。

問 見直しについては、今後の国の想定区域見直しの動向を注視していく。
問 避難指示発令の周知の対応は。

答 現在進めている防災行政無線のデジタル化では、携帯端末へのメール配信や電話による聞き直しサービスで、無線周知

の補完を考えている。また、消防団員による声掛けや自主防災組織の共助の強化を啓発していく。

問 防災行政無線受信機の販売の考えは。

答 さまざまな手段で防災情報が得られるようにすることは、市民の防災対策強化につながるため、個別受信機の販売方法を研究していく。



気象情報を確認しましょう

市制施行30周年について

問 市制施行30周年記念行事の開催予定は。

答 市制施行30周年にあ

たり、記念事業として平成3年の市制施行の際に埋設したタイムカプセルの開封をはじめ、さまざまな事業の実施を考えている。市民・市内事業者の皆さんと共に祝い、市民の絆と日高市への郷土愛を育む機会としたい。

児童生徒の不登校・いじめの現状について

問 不登校・いじめに対する対応は。

答 いじめ防止や不登校を減らすには、魅力ある学校づくりが重要であり、体験活動の充実、基礎学力の定着、人権意識の醸成など、さまざまな角度から教育の充実を図っていく。特に来年度から始まる9年間の小中一貫教育を活用し、系統的な教育活動を行っていく。これらにより日高市

の子どもたちが夢や希望を持ち、安心して学校生活を送れるよう努める。



イノシシの捕獲強化について

大川戸 岩夫

問 市内で、イノシシによる被害が多発していることから、猟友会に支払うイノシシの駆除委託料を増額すべきでは。

答 まずは、猟友会に対し、捕獲頭数の増員を促し、メンバーの増員を促し、捕獲頭数を増やせる状態を確認した上で、増額の検討をしていく。

問 市の予算では、有害鳥獣駆除対策のための電気柵購入費補助金は、総額で20万円となっているが、被害が増加していることから、補助金を増額すべきでは。

答 本年度の補助金は、9月中旬に予算額に達しているため、来年度予算では増額を検討する。引き続き農業被害の軽減につながるよう補助制度の周知に努める。

問 被害防止柵は電気柵に限らず、ワイヤーメッシュ、金網、防鳥ネット

等も補助対象となるのか。
答 補助対象であり、部材の購入費と設置費も含まれる。

問 イノシシの捕獲対策に要する経費の負担について、市ばかりでなく、県に補助金の増額を要望することができるか。

答 昨年度の実績により、県から19頭分の補助金の割り振りがされたが、11月末で達成した。今後、割り振り頭数を増やすなど、県に対して補助金の増額を要望していく。



イノシシの被害防止柵の設置状況

桜の木に寄生する外来害虫クビアカツヤカミキリの対策は

問 埼玉県環境科学センターによる平成30年度の調査では、桜の木を枯らすクビアカツヤカミキリによる被害が、県北部・東部を合わせて8市、128カ所が出たと報告されているが、市内での発生はあるのか。

答 市内での発生は報告されていないが、国、県からの注意喚起や情報を基に市内の現状を確認することともに、市民への情報提供に努める。

問 広報ひだか等に掲載し、注意喚起を行うことも必要では。

答 今後、国、県から出される情報の収集や現状確認と合わせて、広報ひだか、市ホームページ等による注意喚起に努める。

一般質問の要約